伊藤園SDGs推進計画・CSR/ESG目標（KPI） 2016年度実績・2017年度目標

kpi: key perfo-mance indicator（重要業績評価指数）

●印は主に関連するSDGs、○印は関連するSDGs

ESG	7つの中核主題	ESG重要課題（マテリアリティ）	伊藤園の主な目標（KPI項目）	2016年度活動目標	2016年度活動実績	2017年度活動目標	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
ガバナンス（G）	組織統治	コーポレート・ガバナンス	企業統治	—	—	・社外役員の経営へ参画しやすい環境づくり ・社員意識調査結果の経営への反映 ・経営幹部層の育成（部署長教育・経営課題解決講座等）																●	
			内部統制	・内部統制における業務の有効性・効率性の向上	・内部統制推進委員会を開催（6回）	・内部統制における業務の有効性・効率性の向上																	
			サステナビリティ・マネジメント（CSR、SDGs推進基本方針などの管理、社内浸透）	・CSR推進委員会の開催（6回、内2回は実務者会議） ・グループ企業CSR推進会議を開催(4回) ・CSR大賞優良事例に対する有識者のご意見を反映させた活動の深化 ・伊藤園統合レポート2016の発刊	・CSR推進委員会を開催（6回、内2回は実務者会議） ・グループ企業CSR推進会議を開催(4回) ・CSR大賞の表彰を実施 ・伊藤園統合レポート2016を発刊	・CSR/ESG推進委員会の開催（4回、実務者会議2回以上） ・グループ企業CSR推進会議を開催(4回) ・CSR大賞優良事例を反映させた活動の深化 ・伊藤園統合レポート2017の発刊										○				●
			ステークホルダーダイアログの実施	・ステークホルダーダイアログの実施（2回）	・ステークホルダーダイアログを実施（3回）	・ステークホルダーダイアログの実施（2回）																	
			IR活動（投資家との対話）	・経営方針や戦略、CSR経営についてステークホルダーの理解促進のためのIR説明会の実施	・個人投資家向けIR説明会を開催（17回、約3,057名対象）	・経営方針や戦略、CSR経営についてステークホルダーの理解促進のためのIR説明会の実施												○				●	
		リスクマネジメント	社会情勢の変化に対応したリスク関連委員会の開催	—	—	・リスク関連委員会の開催																	
			BCP管理	・BCPの見直し、備品等の整備の推進 ・本社、神楽坂ビル、西新宿ビル、浅草ビルでの防災訓練の実施 ・災害対策委員会の開催（2回）	・BCPの検証、見直し、備品等の整備 ・各ビルでの防災訓練の実施 ・災害対策委員会を開催（2回）	・BCPの検証、見直し、備品等の整備の推進 ・本社、神楽坂ビル、西新宿ビル、浅草ビルでの防災訓練の実施 ・災害対策委員会の開催（2回） ・支店等施設の改修計画の策定と実行確認											●				●	
			データセキュリティとプライバシーの保護	—	—	・情報漏えい防止の徹底																	
		コンプライアンス	コンプライアンスの徹底、倫理規範の遵守	・伊藤園グループ行動規範、行動基準徹底継続 ・コンプライアンス委員会の開催（6回） ・ビジネスコンプライアンス検定の取得推進 ・車両安全教育の実施（安全運転指導者、運転年数の少ない社員、交通事故・交通違反重複者に対する教育の充実）	・コンプライアンス教育の体系的な実施 ・コンプライアンス委員会を開催（6回） ・ビジネスコンプライアンス検定（検定取得率：対象者の約7割） ・車両安全教育の実施（安全運転指導者、運転年数の少ない社員、交通事故・交通違反重複者に対する教育の充実）	・伊藤園グループコンプライアンス「行動基準の手引き」の見直し（ESG対応） ・コンプライアンス委員会の開催（6回） ・ビジネスコンプライアンス検定の取得推進 ・車両安全教育の実施（対象者別年4回） ・免許資格制度改正への対応（保有免許資格と運転可能車両の確認、徹底）										○				●	
社会（S）	公正な事業慣行	公正な取引の遵守	取引に関する法令の遵守と社内浸透	・公正な取引に対する意識向上のための研修を実施	・取引関連法令遵守の意識向上のため研修を実施	・公正な取引に対する意識向上のための研修を実施										●						●	
		サプライチェーンマネジメント	原材料の調達・サプライチェーンマネジメント（伊藤園グループ品質管理方針・調達方針に基づくサプライチェーン管理）	・CSR調達方針の策定と公表、仕入先への「自己評価票」の試験実施	・CSR調達方針を策定	・サプライチェーンマネジメント要素を加味した新方針を策定検討 ・CSR調達方針に基づいた仕入先への「自己評価票」の実施										○		●				○	
	人権	人権の尊重	人権の尊重	・人権尊重への取り組みを継続	・人権尊重への取り組みを継続	・人権憲章（仮）等の策定検討					○			●		○						
			人権啓発活動推進体制の整備・推進、ハラスメントなどに関する教育の実施	・公正な取引に対する意識向上のための研修を実施	・人権啓発活動の実施（ハラスメント等に関する教育）	・人権啓発活動の推進（ハラスメント等に関する教育実施（12回）	○				○			●		○							
	労働慣行	人事・福利厚生	働き方改革制度改正への対応	・働きやすい職場環境のサポート（職場環境改善推進地区委員会を開催） ・有期雇用社員の社員転換制度の更なる充実 ・無期転換に向けた仕組み作り（同一労働同一賃金等） ・キャリア支援をベースとした嘱託再雇用制度の見直し	■職場環境改善推進地区委員会を開催（28回） ・労働時間管理の強化（計画的な働き方の推進） ・安全衛生管理体制の強化（職場の安全点検の実施、クローバー社員へ制服導入） ・有期雇用社員の社員転換制度を継続して実施 ・社員全員が70歳まで活き活きと働ける仕組み作りを整備	・働きやすい職場環境作りのために職場環境改善委員会を開催し社員の要望を聞き改善策を提案（28回） ・多様な人材が柔軟な働き方を選択できる環境を整備し、社員全員が70歳まで活き活きと働くことができる体制の再構築 ・社員のCDP支援を強化することで、人材の育成の強化（社内公募、社員転換制度の活性化）															
			福利厚生、次世代育成支援制度の活用	・福利厚生制度における「ファミリーサポート制度」の整備	・育児、介護支援の拡充を中心とした「ファミリーサポート制度」を整備	・社員のライフステージ（出産・育児・介護・私傷病）を支援する「ファミリーサポート制度」の更なる拡充																	
		従業員の健康・安全	労働時間短縮・有給休暇取得促進に向けた取り組み強化	■労働時間短縮の計画的な取り組みの推進 ・総所定外労働時間の短縮（2018年5月までに▲10%目標／2015年度対比） ・ノー残業デーの徹底（実施率100%） ■有給休暇取得促進に向けた取り組みの推進 ・有給休暇（年間取得率40%） ・長期休暇の取得促進 ■ストレスチェックの実施及び高ストレス者に対するフォロー体制の構築	■労働時間短縮の計画的な取り組みの推進 ・総所定外労働時間の短縮（▲5.6%／2015年度対比） ・ノー残業デーを実施（実施率70%） ■有給休暇取得促進に向けた取り組みの推進 ・有給休暇の計画的付与を実施（年2日）（有給休暇年間取得率35.2%） ■ストレスチェックの実施及び高ストレス者に対するフォローの実施	■労働時間短縮に向けた取り組み強化 ・法定外労働時間の短縮 ・ノー残業デーの徹底（実施率100%） ■有給休暇取得促進に向けた取り組み強化 ・有給休暇（年間取得率45%） ・長期休暇の取得促進（連続5日以上休暇取得率80%） ■特定保健指導の強化															
			安全な職場環境の整備	・全社の安全・衛生を統轄する組織「安全衛生委員会」の実施	・全社の安全・衛生を統轄する組織「全社安全衛生委員会」を開催して、全社の安全衛生に関わる基本方針を策定	・「全社安全衛生委員会」を継続して開催（2回）し、安全教育の実施・徹底																	
		人材育成	人材の獲得と退職防止、人材育成	—	—	・伊藤園大学・大学院などを通じた人材育成の強化																	
			伊藤園ティーテイスター社内検定の有資格者の育成			・伊藤園ティーテイスター社内検定有資格者の増加 ・伊藤園ティーテイスター社内検定有資格者に対する教育の強化（等級別12回）																	

ESG	7つの中核主題	ESG重要課題（マテリアリティ）	伊藤園の主な目標（KPI項目）	2016年度活動目標	2016年度活動実績	2017年度活動目標	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
		ダイバーシティ	多様性と労働環境の平等性、女性の活躍推進	・女性社員のネットワークを強化し、組織横断的プロジェクトへの支援 ・多様な人材が柔軟な働き方を選択でき、活躍できる仕組みづくり ・女性社員に対するキャリア支援の推進 ・外国人技能実習生の技術・日本語力向上と「技能実習2号」の取得	・女性企画によるプロジェクトの推進として、「チーム88」「第二回異業種女性プロジェクト」がCSR大賞を受賞 ・多様な人材が柔軟な働き方を選択し、活躍できる仕組み作り（エリア採用の継続） ・女性社員に対するキャリア支援推進の為、新任管理職への教育実施（1回） ・外国人技能実習生の「技能実習2号」の取得（5名）	・多様な人材が柔軟な働き方を選択できる仕組みについて、更なる拡充を進める ・早期段階でのキャリアモデルを描く為、女性社員への教育実施 ・外国人技能実習生の更なる受け入れ及び技術・日本語能力の向上				●	●			●		●								
			障がい者雇用と支援体制の強化	・障がい者支援体制の強化（雇用率2.0%以上は維持）	・改正障がい者法定雇用率 2.0%以上を達成（2.11%）	・2018年の法定雇用率改正に向けた体制の整備及び定着支援																	
	消費者課題	製品の品質と安全性	品質管理の強化	■伊藤園グループ品質方針に基づくサプライチェーン管理 ・品質会議の開催	■伊藤園グループ品質方針に基づくサプライチェーン管理 ・品質会議の開催（製品、原料・包装で計11回実施） ・伊藤園グループ品質会議の開催 ・伊藤園産業、伊藤園関西茶業のFSSC22000認証取得（実施中）	■伊藤園グループ品質方針に基づくサプライチェーン管理の徹底 ・品質会議の開催（製造委託先、原料/包装、伊藤園グループ企業）												●			○		
			製品の安全性確保	・原料サプライヤーに対する監査（品質監査、トレース監査） ・製造委託先に対する品質監査 ・ISO9001、FSSC22000の適正運用 ・食品工場のHACCP導入義務化に向けた対応 ・残留農薬検査体制の強化	・原料サプライヤーに対する監査（品質監査、トレース監査）を実施（31回以上） ・製造委託先に対する品質監査：91ライン以上実施（1ライン/回以上） ・ISO9001、FSSC22000の適正運用：実施 ・残留農薬検査の徹底	・原料サプライヤーに対する監査（品質監査、トレース監査）の徹底 ・製造委託先に対する品質監査の徹底 ・ISO9001、FSSC22000の適正運用 ・食品工場のHACCP導入義務化に向けた対応 ・残留農薬検査体制の強化																	
			JGAP導入の取り組み推進	・JGAP導入の取り組み推進	・JGAP導入の取組推進	・JGAP導入の取り組み推進（60%）																	
		健康価値の訴求（健康と栄養性）	健康関連の研究	・食品の健康価値に関する研究と発表の実施	・食品の健康価値に関する研究と発表を実施（7回）	・食品の健康価値に関する研究と発表の実施（8回）																	
			健康に貢献する食品・飲料の開発・充実化	・機能性表示食品ラインナップの充実、健康的な食生活の確保	・機能性表示食品の改良、発売（11件）	・健康に貢献する食品・飲料の増加、健康的な食生活の提案			●						○								
			特許・商標戦略	・知的財産権の尊重と保護、活用、侵害防止の推進強化	・知的財産権の尊重と保護・活用	・知的財産権の尊重と保護、活用、侵害防止の推進強化																	
		製品のパッケージングおよび適切な情報公開	環境配慮型容器などの開発	・お客様情報をもとにしたユニバーサルデザイン製品の開発 ・お客様情報に基づく製品設計の見直し ・お客様アンケート調査の実施（200名）	・消費者情報をもとにしたユニバーサルデザイン製品を開発 ・お客様アンケート調査を実施（200名）	・お客様情報をもとにしたユニバーサルデザイン製品の開発 ・お客様アンケート調査の実施（200名）			●										●				
			商品の適切な情報開示	・商品に対する新表示基準への対応（情報収集） ・QRコードによる放射性物質検査結果の情報開示の迅速化	・商品に対する新表示基準への対応	・食品表示基準改正等への対応（原料原産地表示等への対応）																	
		製品の求めやすさ	販路別営業網の活用および小売店の強化（お茶を活用したお客様との接点強化）	－	－	・インバウンドに対応した商品及び店舗の展開			○						○								
		公正なマーケティングと広告	公正なマーケティングと広告	－	－	・公正な広告方針の策定検討												●				○	
		個人情報の保護	データセキュリティとプライバシーの保護（再掲）	・個人情報の厳正な管理の継続	・改正個人情報保護法を踏まえた体制整備	・個人情報の厳正な管理の継続																○	
	コミュニティへの参画	コミュニティと人権課題	人権関連貢献型自動販売機の推進（おぎゃー自動販売機、犯罪被害者支援自動販売機など）	－	－	・コミュニティ課題に対応した自動販売機の継続設置及び推進	●											●				●	
	及びコミュニティの発展	コミュニティと地域活動	伊藤園まち・ひと・しごと創生推進基本方針に則した地方創生活動の実施	・まちひとしごと推進基本方針に則した事業の設計（関連部門との協働）・ 地方創生活動への参画	・渋谷区との包括協定の締結	・関連部門との地方創生活動の実施（高知県との包括協定の締結）																	
			文化プログラムへの参画・活動の展開	・文化プログラムへの参画	・beyond2020プログラム認証申請に向けた取り組みの実施	・「伊藤園お～いお茶新俳句大賞」の適切な実施及びプログラムへの認証・活用 ・伊藤園ティーテイスター社内検定資格保有者によるお茶セミナーのプログラム認証申請																	
			伊藤園ティーテイスター社内検定の活用（茶文化プログラムの推進）	・文化遺産での大茶会、日本茶文化セミナー等による茶文化の啓発活動の強化 ・ティーテイスター制度有資格者の積極的な社外への派遣	・学校、神社、仏閣と連携したイベント活動の展開などティーテイスター制度を活用したお茶セミナーを年間を通じ継続実施（1,238回） （大茶会への参加、全国スーパーでの大茶会を含め茶の普及活動を実施）	・文化遺産での大茶会、日本茶文化セミナー等による茶文化の啓発活動の強化 ・伊藤園ティーテイスター社内検定有資格者の積極的な社外への派遣																	
			地域社会に対する関係強化	・消費者団体等との意見交換会の継続実施 ・外部団体との関係強化、およびイベントへの積極参加。和食文化国民会議への参画	・消費者団体等との意見交換会を実施（2回） ・工場見学の実施（220回） ・伊藤園レディスゴルフトーナメント開催（ボランティア1,195名、チャリティ8,877,561円）	・消費者団体等との意見交換会の継続実施 ・工場見学の継続実施 ・外部団体との関係強化、およびイベントへの積極参加。和食文化国民会議への参画 ・伊藤園レディスゴルフトーナメントの継続開催																	
		コミュニティと産業育成	茶産地育成事業（新産地事業）の年間生産量（参考：茶園面積）	・茶産地育成事業（新産地事業）における荒茶生産の更なる拡大 ・年間生産量：960トン（参考：茶園面積約396ha）	・茶産地育成事業（新産地事業）における荒茶生産の更なる拡大 ・年間生産量：1,185トン（参考：茶園面積約376ha）	・茶産地育成事業（新産地事業）における荒茶生産の更なる拡大（佐賀県） ・年間生産量：約1,270トン（参考：茶園面積約410ha） ・雇用面での地域への貢献		●						●	○		○	●					○
			農業生産法人との連携強化	・農業生産法人との連携強化	・農業生産法人との連携	・農業生産法人との連携強化																	
		コミュニティと環境・文化	「お茶で日本を美しく。」プロジェクトの活動	・「お茶で日本を美しく。」プロジェクトの継続展開、地元支援自治体等との連携した地方創生活動の推進	・「お茶で日本を美しく。」プロジェクトを46都道府県で展開	・「お茶で日本を美しく。」プロジェクトの継続展開、地元支援自治体等との連携した地方創生活動の推進					●		●					●		○	●	●		○
		コミュニティの震災復興支援	震災被災地の支援継続、被災地自治体との関係強化	・震災被災地の支援を継続し、被災地自治体との関係を強化 ・「お茶っこ会」の展開を継続	・「お茶っこ会」の継続実施（18回）	・震災被災地の支援を継続し、被災地自治体との関係を強化 ・「お茶っこ会」の展開を継続												●					○

ESG	7つの中核主題	ESG重要課題 （マテリアリティ）	伊藤園の主な目標（KPI項目）	2016年度活動目標	2016年度活動実績	2017年度活動目標	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
環境（E）	環境	気候変動・大気汚染の防止	温室効果ガスの排出、全社CO2排出削減	・全社CO2排出量削減2009年度比−8%	・全社CO2排出量2009年度比−21.8%	・全社CO2排出量削減への取り組みの継続																●	
			ヒートポンプ自動販売機比率向上	・ヒートポンプ式自動販売機稼動比率85%	・2017年4月末時点、全自動販売機145,390台中、ヒートポンプ式自動販売機125,857台（86.6%）稼動	・2017年度はヒートポンプ式自動販売機13,000台導入を計画、今後さらに拡大予定							●					●		●				
			車両燃費向上	・車両燃費向上2012年度比 +1%	・車両燃費向上2012年度比 +0.8%	・車両燃費向上2012年度比 +1%																	
		省エネルギー推進	全社の電力使用量削減	・全社の電力使用量削減2015年度比−2%	・全社の電力使用量削減2015年度比−0.34%	・全社の電力使用量削減2016年度比−2%																	
			生産時のエネルギー管理、飲料製造工場のエネルギー削減	・沖縄名護工場の電気使用量2013年度比−3%	・沖縄名護工場の電気使用量2013年度比−16.5%	・沖縄名護工場の電気使用量前年度比−1%							●					●		○				
			輸送時のエネルギー管理、ブロック生産比率向上、モーダルシフト	・ブロック生産比率70%以上	・ブロック生産比率68.2%	・ブロック生産比率70%以上																	
		生物多様性の保全	茶産地育成事業でのモニタリング	・茶産地育成事業の新産地における益虫モニタリング	・定期的に実施（茶葉摘採時期のみ）	・茶産地育成事業の新産地における益虫モニタリング																	
		水の管理	生産時の水の消費と排水の管理（自社工場および委託先工場の水使用量に関する情報収集の強化）	・バリューチェーン（飲料製造委託先）の水資源に関する実態調査実施	・飲料製造委託先について実態を調査し、サステナビリティレポート2016報告編で一部公表	・バリューチェーン（飲料製造委託先）の水資源に関する実態調査実施						●						●					
		廃棄物とリサイクル	廃棄物の管理、食品リサイクル率向上	・緑茶包装工場の再資源化率100%維持 ・食品リサイクル率90%以上	・緑茶包装工場の再資源化率100% ・食品リサイクル率95.1%	・緑茶包装工場の再資源化率100%継続 ・食品リサイクル率90%以上							●		○			●	●				
			茶殻リサイクル	・茶殻再利用量：1,050t以上	・茶殻再利用量：1,179t	・茶殻再利用量：1,200t以上																	

※「環境」の詳細については別紙をご参照ください。

先進国・発展途上国共通の2030年への目標：持続可能な開発目標（SDGs）

※17のゴールの注釈は、関係機関の和訳を参考に当社にて整理したもの

1. 貧困の撲滅
2. 飢餓撲滅、食料安全保障・持続可能な農業
3. 健康・福祉
4. 質の高い教育
5. ジェンダー教育
6. 水・衛生の持続可能な管理
7. 持続可能なエネルギーへのアクセス
8. 包摂的で持続可能な経済成長、雇用
9. 強靭なインフラ、産業化・イノベーション
10. 国内と国家間の不平等の是正
11. 持続可能なまちづくり
12. 持続可能な消費と生産
13. 気候変動への対処
14. 海洋と海洋資源の保全・持続可能な利用
15. 陸域生態系、森林管理、砂漠化への対処、生物多様性
16. 平和で包摂的な社会の促進
17. 実施手段の強化と持続可能な開発のためのグローバル・パートナーシップの活性化